

ミランクラブジャパン パネル展・絵画展

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
理事長 マナダール マダーブ ナラエン

11月18日~22日にかけて掲題の展示を行った。会場はさいたま市、浦和駅東口にあるパルコが入っているビル 9 階の市民活動サポートセンターの多目的展示コーナー。主催 ミランクラブジャパン、共催 ミランクラブネパール、後援 ネパール大使館、埼玉県国際交流協会で、「忘れないで！わたし達のネパールを」と題し大きく 3 つのブースに分け展示した。

“ネパールの印象、ネパールの魅力”では皆さんから送っていただいた思い出深い写真にコメントを添えての展示。“風化させないネパール大地震復興支援”では被災状況とミランクラブの取り組みの紹介。“ネパールの未来、発展を願い”ではこれまで教育支援をしてきた里子たちの紹介、日ネ学校間での交流、日本からのボランティアが指導した子供たちの絵画の展示だった。

会場の真ん中の柱にはネパール国旗とエベレストの写真、活動の主旨が貼られ遠くからでも目を引いた。その下のテーブルには元里子の作ったガーゼのハンカチ等々、飾り付けられた。柱の三面にはこれまた華やかな幾つかの民族衣装やタルチョ（仏教の祈りの旗）で彩られた。展示された其々のパーテーションは見やすく配置したパネルで埋め尽くされた。



ボードの 2 面を使って展示した“ミランクラブはネパールの女の子を里子として就学支援を続けています”のパネルの前に立った時は胸が熱くなった。それはネパールの地図の周りに貼られた 970 名のこれまでの里子たちの写真だった。私たちの 29 年間の歩みをしみじみと思った。特に活動が始まったばかりの頃の里子の記憶や、その当時のことが鮮明に思い出された。



初日 18 日には、その中の一人、アルチャナ・マナダールさんが来ていて、自分の写真を見付けニコリ。

彼女は小学校から大学卒業まで教育支援を受けていた。その後、日本で働きながら学び日本語検定 2 級も取得、現在は結婚し、日本で働いている。将来はネパールでのガイドの仕事希望している。



そして皆さんからの写真は其々がネパールの懐かしい風景であり、貴重な記録だと感じた。



震災の写真では 2 年半経った今も恐ろしい記憶として心に突き刺さる。当時の支援の輪の広がり感動を覚えたものだった。集まった義援金を直接被災者に渡せたことは良かった。



ネパールの子供たちの絵や日ネ学校間交流を皆さんに紹介できるのは嬉しかった。ミランダルマスターリ学校に派遣された齋藤さん、武藤さん、子供たちと一緒に貴重な時間が写真に収まっていた。



来場者の方々との交流もあり、アンケートも書いてもらった。アンケートを入れる箱には、いつの間にか寄付金も入っていて皆さんの優しい気持ちを知り嬉しかった。



篠原副理事を中心に企画、実行された今回のパネル展は来年 30 周年を迎えるミランクラブジャパンにとっての前夜祭のようなものになった気がした。目に見える分かりやすい記憶は私たちの活動を鮮明にしたと思う。理事の方々、会員及び協力してくださった方々、心から感謝の意を表したい。

